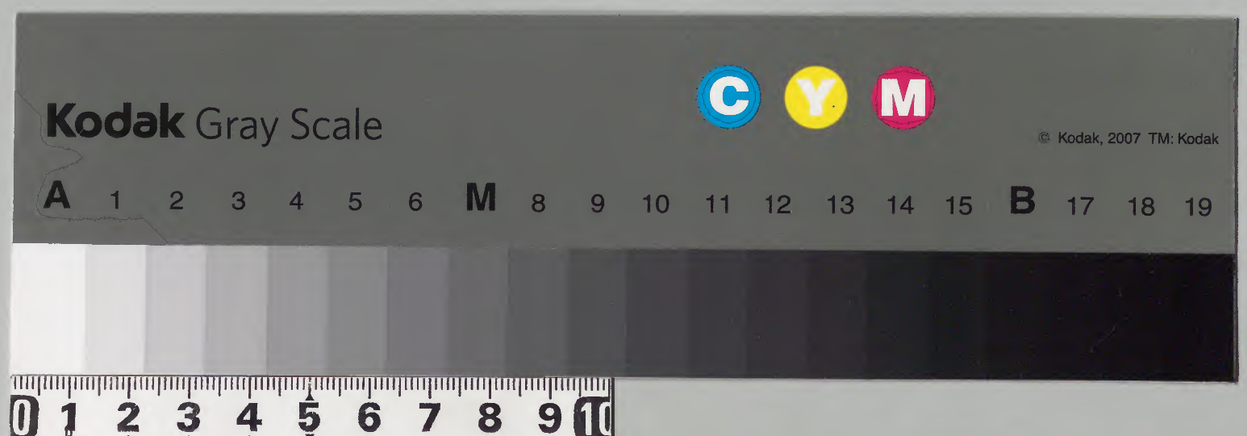

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
番號 和 29019
冊數 40（20）
函號 172 310

内閣文庫
和書
類 三九二九號
冊 四〇
架 三函

和書門
類 三九二九 號
函 架
冊 四〇

地三三
内一二六號

勢陽五鈔遺　卷之序

二十

国立公文書館
National Archives of Japan

勢陽五鈴遺響安濃郡巻之三

家所 五百野ニ良位
山林ニアリ安濃津府ノ西三里
傍ニ民居ス正税千七百三十七石津領
ナリ属邑多シ 坂井本邑ノ乾位
ニアリ旧名
坂下記セリ野田東
リ井面坤位ニアリ向出本邑ノ南ニア
ノ口馬場ト金垣内
鳳抛云宅所ノ御厨
神領目録云堺御厨三
リトス今ノ坂井ナル
拓筆山傳法寺
処ニアリ曹洞宗能登州惣

内一〇七二五號

持寺ノ末本尊阿弥陀佛往昔ハ大刹ニメ寺領
五十貫アリ天正年中兵革ノ後滅廃メ今ハ艸
堂ノミ遺レリ
伊永山応徳寺 同処ニアリ 応徳元年開基年
歸ヲ以テ名ク天台宗本尊薬師佛往昔ハ子院
数宇アリ寺産百五十貫ノ処ニメ家所家歴代
ノ祈願所ナリ熊野山先達モ當山不動院ニ勤
務セリ天正年中兵革ニ寺領モ烏有トナリ其
後火災ニ罹リ寺記什寶モ悉ク廃セリ今ハ纔
ニ小堂容殿存セリ
式外辰口大明神 同処ニアリ神鳳抄云二宮
辰之口御厨廿丁外三石九斗六九十二月辰ノ

二口本名四丁二反辰ノ口三丁辰ノ口一女子神
田八反同本労三丁ノ御厨ノ地ナリ
徳雲廃寺趾 同処ニアリ今ハ耕農ノ地トナ
リテ字ヲトクゴ立トヨ称ス北畠権少将源国永
家集ニ三月五日家所徳雲寺に遣さくるを狩
[illegible]
[illegible]
家所城墟 同処ニアリ民間ノ中ニ竹林及旧
井アリ真遺址ナリ長野分家家所参河守藤安
八代相傳ノ地ニメ居住セリ薙髪メ蘆庵ト称
ス後ニ一志郡小倭郷佐田ニ休遁ス其男家所
帯刀正藤高織田上野介信包ニ属ス塔トナリ

其裔家所帯刀元和元乙卯年大坂内府秀頼公
ニ屬メ戦死メ家称ヲ廃ス真善名録家所修理
亮ト載タリ
家所池　同処ニアリ濶サ数十畝アリ相傳云
日南田家所ノ北ニアリ正税二百七十三石津
領ナリ　　墾処ト云ヘリ
神山ハ日南田ノ東ニアリ草生郷ノ内ナリ草生
神山ト称ス同郡同名雲林院ノ内神山アリ故
ニ方俗分辨セシ為ニ郷名ヲ冒メ称ス正税
百七十石津領ナリ
二子ハ神山ノ北ニアリ正税三百二十四石津領
ナリ
前野　神山ノ巽位ニアリ正税二百三十石津領
ナリ
光明寺　前野ノ坤位ニアリ正税百六十八石津
領ナリ光明寺存ス故ニ名ク本郡ノ内浄土寺
観音寺三邑浄明寺薬王寺等号ノ地多シ
水上山光明寺　同処ニアリ本尊観音慈覚大
師作
神田　前野ノ艮位ニアリ正税百三十六石津領
ナリ三重及度會郡同名アリ
今徳　前野ノ巽位ニアリ正税四百五十八石津
領ナリ属邑西今徳本邑ノ西ニアリ

今徳山ノ城址同処ニアリ国司北畠家ノ麾下奥山常陸介居セリ永禄十一年織田上野介信包南勢ヲ鎮セシ為ニ安濃津城ニ居ク工藤家信包ニ属ノ此城ヲ撃ツ南方国司與カメ篭居ノ挑戦ス俠勇ノ士更ニ陥ルヿナシ後ニ北畠信雄ニ属ス天正四年御瀬御所北畠具教ヲ撃ニトス其列伍ニアリ旧恩ヲ顧テ半途ニメ病ト称メ還去ル其後濃州竹鼻陳ノ時戦死ス事蹟ハ度會郡三瀬ノ條ニ詳ニセリ

長谷ノ家所ノ東ニアリ安濃津府ヨリ西二里長谷寺存スルヲ以テ名ク正税百廿七石津領神風抄云遠長谷寺御厨四丁二反

近田山長谷寺同処村ヨリ四丁山上ニアリ長谷山ト称ス又遠長谷寺ト号ス飯高郡長谷寺アリ近長谷寺ト称ス二処ニヿ和州長谷寺ヲ摸セル処ニメ其遠近ニ従フノ名称ナリ禅宗開山東福寺天外和尚本尊十一面観世音恵心僧都作一云春日佛工作国順禮第十三番

古屋双紙ハ

所謂大和州長谷順礼ノ詠ニ似タリ本堂ノ傍ニ鏡石ト称ス巨盤アリ又車塚ト云アリ往昔八大刹ニメ寺領八十貫アリ天正年中兵革ノ

後滅セリ本堂ノ後ヨリ光明寺村観音堂光明
寺ヘ十八丁坂路ヲ経テ到ル徑アリ
薬王寺 長谷ノ南ニアリ方俗ヤコウジト訛ル
和名鈔縣々郷今云片田郷ノ内ナリ正税三百
二十六石津領ナリ一志郡同名アリ薬王寺存
スルヲ以テ名トス
薬王寺 同処ニアリ本尊薬師如来古昔ハ大
刹ニシテ今纔ニ存ス古屋艸紙云天平十二年聖
武天皇行宮ノ地ト云恐クハ非ナリ
惣社 午頭天王祠 同処ニアリ神風徴古録云
聖武天皇安濃行宮ノ地ニシテ片田郷ノ惣社ト

久保 薬王寺ノ南ニアリ安濃津府ヨリ西三里
半片田郷ノ内ナリ正税五百六十一石津領也
度會郡同名アリ属邑上平尾アリ
本智山観景寺 同処ニアリ禅宗東福寺末本尊
釈迦佛文明年中開創ニシテ往昔ハ寺領五十貫
アリ天正年中兵革ノ後頽廃セリ今領主国印
七石ヲ寄ラル境内景致満山ニ櫻多シ推少将
源国永家集ニ今尾トイフ所ニテ花ヲ見テヨ
メル
白雲ぬかゝりとみし山ざくら尾ともさらぬ峯
雑記曰今尾ト云処今ナシ観景寺ノアル村ヲ

平尾ト云此処ヘシ上平尾ハ小字ナリ二
云万年山観慶寺本尊十一面観世音安濃津順
礼処ナリ明暦中焼失陽雑記ニ所載ト異ナリ後
ニ更名スル処ナルヘシ
片田一本松同処ノ街道之傍ニ千古ヲ歴ル
古松一株アリ往昔ヨリヒトツ松ト称ス権少
将源国永家集云片田ノ一本松トイフ所ニ秋
山出城ヲ築キ侍リシニ士卒ノウチニ花ヲモ
ミロク生ケ、ル程ニ
[illegible]
片田城趾同処ニアリ北畠家臣野田礼郎左
衛門尉住ス長野具盛ニ属スト真善院名録ニ
載タリ
前田久保ノ巽位ニアリ片田本邑ナリ故ニ方
俗片田トモ称ス同郡同名草生ノ内ニアリ正
税三百五十一石津領ナリ長野街道ニ民居ス
神鳳抄云前田膳正御厨七丁
井戸前田ノ東ニアリ片田郷ノ内ナリ正税四
百十二石津領ナリ
志袋前田ノ艮位ニアリ片田郷ノ内ナリ正税
七百四十四石津領ナリ属邑佐々礼石アリ神
鳳抄云佐々礼石御厨内宮一石六九十二月雑
記云古今集
君ノ代々ノ代ハヽ千代ましれゐのいろはとなりて苔ぬ

此哥ハ當村ヲ詠ル哥ナリト処ノモノイヘリ
里ノ良ニ往還ノ道ニ民家四五字アル処ナリ
是ヲサハレ石ト云岩尾ト云ハ今ノ往来ノ道
ニ石橋イカヽリテ岩間ヲ水ノ流ル小川アリ
此処ヲ云其アタリノ田畠ノ字モ岩尾ト云又
其近辺ニ苔ト云処アリ是モ田ノ字ナリ此三
処ヲ讀ニ入タル哥ナリ本説ニ信用シ難シ然
レ右ノ三処ノ字自然ニ此哥ニカナフヘシヒ
思ハレ不審ナリ古ハ今ト力ハリ志袋ハ枝郷
ニテ硬石村本郷ニ有大神宮ノ御厨米ワトメ
タル例アリ今詮ナシルニ方俗ノ傳ハ妄ナリ信
シ難シ佐々礼石ハ本邑ニメ志袋ノ名ハ後

産品 志袋ノ東ニアリ片田郷ノ内ナリ正税八
百五十五石津領ナリ産品ノ名称ハ本居或ハ
生土ニメ置染神社及平忠盛ノ遺蹟ニ拠レル
名ナリ後号ニ詳ニセリ神鳳抄云産階御薗
長谷村ヨリ産品ハ二里余此ニ猿石アリ本邑
八王子神明ニ社アリ八王子ヲ本社ト云
式内置染神社 同処ノ後ノ山半腹ニアリ八王子
ト云方俗産神ト称ス祭神天日別命度會延
経神名帳考證云置染神社神麁命荻野村荻與
置向訓野ト乃曽音訓横音通ス染之下畧姓氏
録ニ云大掠置始ノ連ハ阿居太都命之後也同

云神魂命八世ノ孫阿居太都ノ命三代實録曰
貞觀四年七月廿八日伊勢国安濃郡人右辨官
史生正七位上仲業賜姓安濃宿祢神魂命
之後也度會正身神名帳再考證云置染神社
ハ此命ヲ祀ルナリ當郡ニ阿古木浦アリ疑ク
ハ姓氏録ノ太ノ字ノ水ノ字ノ誤リナルヘシ
地名ニ津ノ字ヲ添テ司トル人ノ名トセルナ
例前ニモヘタリ故今定テ阿古津命ト云考證
ニ産品村ニ在トスルモ此地ノ祖神ナレハ産土神
ト称スルモ佳ナリ今詳ニスルニ延經考證
置染ノ神社ノ名義ニ拠テ置ハ萩ト同ク染ハ
野ト曽横通音ニメ女ヲ下畧ノ萩野村ニ所建
トスヲキ野ト称スル地本郡及他郡ニナシ本
州ニ萩野村アリカキノ轉ニメ今ハイノトト云
此村名ニ拠テ何ソ置染ノ名ノ起ルナランヤ
是地名ヲ不知メ紙上ノ虚誕ニメオ禾ノ謬ヨ
リ臆度説ナリ姓氏録及三代實録ヲ引徴スル
処然リ神魂命ヲ奉祀スルトト云ハ妄ナリ既ニ
本郡安濃村阿由太神社ニ縣主宿祢ノ遠祖神
魂命ヲ祀レリ同郡ニ二社同神ヲ祀ルベシ正
身再考證白姓氏録ヲ引テ神魂命ハ世ノ孫阿
居太都命ヲ祀ルナリト必定ス猶阿古太
都ノ神名ハ本郡阿古木浦ノ名ニ合メ阿古木
津命ト云ヘシ其地ヲ主宰スルノ神名ニ地名

ヲスルト云伊勢津彦久々都比古等ノ例ヲ云ヘリ各非ナリ阿古太都命ハ北畠親房記ニ載テ社地此ト別ナリ猶阿古木ノ名ニ非ルハ明ナリ又云考證ニ産品村ニ在トス上ニ謂如ク萩野村ニアリトス更ニ産品ノ霊明ノ言ナシ妄ナリ是自疑ノ処ヲ考證ニ記スルナルベシ勢陽雑記拾遺及背書国誌古屋双紙各神魂命ヲ所祀トス稍ク是ニ近シト云ヘルニ未詳セサルナリ考證従ヒテ相同シ前説ヲ尽ク排斥メ風土記所載置染神社所祭天日鷲命也言ニ従ヒテ天日別命ヲ此ニ奉祀スル小謂ヘシ天鷲命ハ天日別命ノ別名ナリ風土記モ亦別ノ所撰ハ信シ難シト云ヘルニ其餘所譽ナシ惣テ其遠祖ノ神ヲ縣主ノ所祀ハ他郡ノ神社モ皆然リ中祖ノ神魂命及阿古太都命ハ別ニ神社ノ所祀アリ本郡安濃阿由太神社及後説ニ詳ニセリ併譽ヘシ伊勢国風土記曰置染神社圭田三十二束三字ノ田五毛ノ田大日本根子彦国別天皇考元五年辛卯三月所祭天日鷲命也北畠准后親房洞津考曰ムカシノ事ニナヘ伊勢ノ朝臣外衛トモウニケルモノ此所ニリケル支国ノアマ子クニレル支ナレハ今サライハシモヨモナシカノ外護ノ朝臣ハ天ノ国常立ノ神裔ナリケル天日別命ノ後ナリトソ

天日別ニ三タリノ子アリケルヲ百舌雄ハ都
々藻別ニリケル其斎イセノ朝臣三ナカレニ
テアノ津ノ外護ソ国造ニケル中署平家
ノムカシ此国ニヒソマリケル時カハ幡ノ宮
トテイハイケルモ絶テ今アノ、傍ニトテ田
林トソマホシ侍ヘキ其左ニアコタチノヤシ
ロヲキ深ノ氏社ヲタツナラビニモ今ハ濱ノ
松風ニ音サヘ絶タル此ニヤシロハホノ、柱宮
ナリケタカタヲロリソカナラヌヤウニアラン

ガシ
日本書記天武巻及天日本史天武本紀
曰天皇使出雲伯撃却之遣紀阿閉麻呂多品三
輪子首置始莵将兵数万自伊勢大山赴倭続
日本紀第五元明天皇和銅四年四月壬午詔叙
文武百察成選者云云従六位上置始連秋並従
五位下同第七霊亀二年夏四月癸亥詔壬申助
臣賜少紫村国連小依息従六位下志我麻呂中
署贈小錦上置始連宇佐伎息正八位下虫麿二
十人賜田各有差同第八霊亀五年正月甲戌
條云正七位下置始連志祁志女正八位下置始
連首麻呂同第廿二天平宝字元年十二月壬
子大政官奏曰旌功錫命聖典攸重哀善行封明

主所勢我天下也乙巳以来人々立功各得封賞
但大上中下雖載令條功田記文或其品ヲヲホ
ニ今故ニ此校昔令議定其品大職冠藤原内大
大臣乙巳年功田一百丁大功世々不絶贈小紫
村国連小依壬申年功田十一丁贈正四位上文
忌寸禰麿贈直大壹兆部臣君手並同年功田各
八丁贈直大壹文忌寸智徳同年功田四丁贈小
綿上置始連菟同年功田五十五人並中功也云
云又巻十八天宝勝宝三年正月己酉従五位
下置始女王正五位下置始連継為隠岐史
正月辛亥授正五位上置始皇女従四位下又
巻三十四仝七年秋七月丁亥従四位下置始女
王卒ス三代實録第三十九元慶五年四月廿八
日乙巳主計史生従八位上置始連継為隠岐史
生萬葉集第一置始東人ノ此数件ノ説ニ拠テ
詮ス仏ニ神竈命八世孫阿古太都命ヲ載テ孰レ本郡
曰神魂命八世孫阿古太都命ヲ載テ孰レ本郡
ヲ所濃ノ安濃氏ノ奉祀ス此処ニメ安濃宿称
ノ本貫安濃村ノ阿由多神社ニ奉祀ル処ナリ
阿古太都神社ハ今遺失セリ然レ共本邑置染
神社ハ旧ト洞津考ニ拠ルニ同郡塔世ニ祀ル
処ヲ後ニ此地ニ移セシナルヘシ置染ヲ置始
ニ以前條洞津考記スカ如ク本郡ノ宗社ニメ
郡主外衛ノ遠祖ノ神天日別命ヲ津府ニ奉祀

ル始テ置タル処ナリ故ニ置始神社ト謂ベキヲ假字ニ以後世置染ト更テ延喜式ニ載タルナルベシ又其地モ亦変リテ今ノ彦品ニ祭リ其地ヨリ生ル土ノ神社ノ存スルニヨリ彦品ト字ヲ假テ称スナリ生土ハ旧ト本居ナリ続日本紀第二十三天平宝字四年冬十月癸酉條云陸奥掾従六位上蒲原ノ公蒙安堵許之本居ヲ以テ蒲原ノ公ノ字ヲ訓ス日本書紀及三代實録等往々出タリ尾張国風土記曰葉栗郡葉栗郡字夫須那神社祭神盧入姫命盧入姫産居ノ地也云云就テ郡主外衛ノ本居之地ノ意ヨリ又云旧ト塔世ニ奉祀ノ置染神社ノ地ハ季世ニ至テ其地ヲ遺失セリト謂ベキ然ル時ハ置始ノ連ノ姓氏ニ拘ハリタル神社ニ非ストス北畠村親多氣窓螢白ムカシ後堆后ノ御草テ洞津考ト申スヲミカンセ玉モキヨキ染メ社ノ侍ルニツケテ心ヨルカタモトタケル今ハアコギ塚トナヒ申シヲボウカナヒ永正年中ノ著書ニメ其時旧趾モ詳ナラス今ニ至リテ其地ヲ得ヿ難或云平忠盛生産ノ地ナルカ故ニ産品ト称スル歟謂ヘリ是後人ノ牽強ナリ然レ共上古ノ郡主ノ遠祖ノ神社歴然タルニ拠テ此説ニ惑

ワヘカラス
平忠盛胞衣塚同処ニアリマリカ塚ト名ク
丸山ノ岡ナリ又ウブ塚ト称ス勢陽雑記云平
忠盛誕生ノ処ト云傳タ実ハウマレカ塚ト云
忠盛ハ桓武天皇ノ苗裔葛原親王ノ後胤ナレ
ヒ中比無下ニ打下テ官途モ浅ク都ノ住居モ
ナリ難タ常ニハ伊勢ニノミ居住セシ人ナレ
ハ此一門ヲ伊勢平氏ト謂侍レハ生国ト云モ
アラニカモ今詳ニスルニ伊勢平氏ヲ徴ハ
平家物語及源平盛衰記ニ載タリ中世安濃府
城ハ桓武天皇十代後裔出羽守平正衡三男帯
刀長安濃津三郎貞衡其男清衡ヨリ歴代コヽ
ニ往ノ正盛ヲ此地ニ産ノ其胞衣ヲ蔵スト云
ハ其謂ナリ生卒ヲ考ルニ白河天皇永長元丙
子年誕生ニメ近衛院天皇仁平三年癸酉正月
十五日五十八歳ニメ卒セリ其誕生ノ地ハ本
郡ニメ卒去ノ地ハ多氣郡河田ニ存リ宴ニ伊
勢平氏ノ中興ノ祖ニメ本州ニ生卒ノ地ヲ遺
セルモ其餘ノ武将ト異ナリ所謂狭鵠不忘其
巣ノ譚ナリ一説云置始神社国津神伊勢津
彦ノ命ヲ祀レリ今詳ニスルニ大ニ牡撲ナリ和
銅風土記ニ所載天日就鳥命ナル支必明ナリ他
ヲ容ルニ及ハス就鳥尾系図云桓武天皇女葛
原親一品式部卿其子高見王其子高望王上総

仍従五位下始賜平姓其子国香常陸大掾鎮守
府将軍其子貞盛鎮守府将軍陸奥守従四位下
其子惟衡陸奥守従五位下其子正度出羽守従
五位下其子貞衡安濃津三郎其子貞清其子二
人アリ嫡子驚尾太郎家衡伊勢国ニ住ス驚尾
次郎清綱丹波国ニ住ス正衡此ニ正度ニ依ル
前大平記義家朝臣逝去糸云長治二年ノ夏
ノ末ヨリ前奥州義家朝臣病床ニ付遂ニ八月
十八日ノ暮方ニ京都ノ館ニテ逝去ニ玉ヒ御
年六十八トソ聞ニ即河内国壺井ノ南通法寺
ノ山中ニ葬奉ル奥州存生ノ中家督相続ノ子
嫡男義宗ハ先年早世ニ玉ヒ次男義親相承ニ
王ノヘニト思ヒツル父ノ奥州如何思ケニ次
男三分ヲ閣テ四男義忠ニ譲玉フヘキ其聞ヘ
有ケリ素ヨリ義忠ハ朝家ノ御覚モ他ニ異ニ
メ官位昇進モ滞ナク左馬介ニ任セラレ兄弟
ノ中ニモ一際イミヂクソ見ヘ玉フ次男義親
ハ其質狼戻ニメ容ニト忽野心ヲ思ヒ立テ其間ヲ窺ケリ康和二
年ノ春近江美濃尾張惣ノ坂東ノ国々ヨリ是
社對馬守義親カ軍勢催促ノ田文ナリトテ数
十通夫覧ニ備ヘケリ諸卿僉議アツテ義親ヲ
出雲国ヘ配流セラル又流刑ノ国ニテモ徒黨
ヲ集メ国ヲ騒ヒケレハ天仁元年因播守平正

盛数万ノ軍勢ヲ率シ出雲国ノ流人前對馬守
源義親並二郎ホ四人カ首ヲ斬テ京都ニ登ス
其外ノ賊徒山賊海賊ホハ行方シラス落テ行
或ハ一旦組シツレ共後ヲ思ハン武士ハ恥ヲ
捨罪ヲ謝メ降人ニ出ケリ偖コソ残黨一時
ニ服シ国中須臾ニ平キヌサレハ正盛一戦ニ
強敵ヲ誅戮シ数千ノ降人ヲ引率メ喜ヒノ眉
ヲ開キ都ニ帰上リケリ法皇御感浅カラス今
度ノ功賞ニイセノ国ヲソ賜ハリケル
殿村　産品ノ良位ニアリ正税千四百四十二石
津領ナリ飯高郡ニアリ古屋草紙云伊勢平
氏始祖安濃津三郎貞衡此津ニ領主タル時第
宅殿村ニアリト云今憶フニ殿村ノ名此ニヨ
リ出ル属邑五軒茶屋本邑ノ巽位街道ノ傍ニ居
ス濃垣内本邑ノ巽位ニアリ外宮神領目録
云當時御贄殿村貳俵云云
小舩　殿村ノ艮位ニアリ正税六百四十一石津
領ナリ神鳳抄云四宮小舩別名三斗長野家
氏族工藤次郎左衛門尉住ス真善院名録ニ載
タリ
分部　小舩ノ乾位ニアリ正税千七百八十五石
津領ナリ旧名別部ナリ神鳳抄云別保御厨
一丁三段奄藝郡ニ大別保アリ故ニ奄藝郡欤
ノ傍注ス後人ノ所加ナリ長野ヨリ別府ノ謂

ニメ此処ナリ属邑神風抄云弘永御厨十五丁
五反弘長本邑ノ川東ニアリ
分部城墟同處ニアリ長野分家分部左京亮
藤原光高五百騎ノ将ナリ其嗣長子分部左京
亮光嘉居セリ一云藤光トス天正四年豊臣秀
吉菴藝郡別府上野城ヲ給テ居セシム即長野
分家ニメ此処モ別部ト称シ又上野城モ別府
ト云今分部或ハ菴藝郡ニメ別保ト訛轉スル
処ナリ後ニ此光嘉ヨリ近江州高嶋郡大溝城
代ヌニ給食ス今分部若狭守藤原光実朝臣也
分部燐火 五菊岡沾涼諸国里人談曰伊勢国安
濃津塔世川ノ上分部山ヨリ小キ挑燈ホトナ
ル火五十モ百モ一面ニ出テ縦横ニ飛廻リテ
後五六尺ホト一塊ニナリテ塔世川ヲ下ルコ
水ヨリモ早シ又塔世カ浦ニ鬼ノ塩屋ノ火ト
云アリ此火中ニ八老嫗ノ息ノ形アリケル彼
川止ノ火ト行合ヒ行違ヒ飛返リナトメ相闘
フ態ヲテ又一塊トナリ其後又分レテ一ツハ
沖ノ方ヘ飛一ツハ川上ヘ奔ルナリ今詳ニ
スルニ鬼カ塩屋ト称スハ今小舟ノ郷ナリ前
ニ録スル菴藝郡太部由ニアリ寛保三年刊行ス
ル処ニメ今ニ至リ燐火ノ出ルコ然リ本艸綱
目云田野燐火及牛馬兵死者血入土年久所化
其色青状如炬沈存中夢溪補筆談云揚州有三

火其大也其行如飛殆類日光老学庵筆記云即
年十余歳見二郊野間火至多麥苗稻穗之抄往
之出火其色正青俄位不見是時去兵乱未久所
詛人血為燐者終不妄也湘山野録云柳仲塗閒
因云余頃ル守維陽郡堂絶ノ藥園纔陰雨則青
炎夕ニ起ル触近則散ス何耶寧云是燐火也兵
戦血或牛馬血若土則凝結ス為此氣雖千載不
散柳遽ニ堀之皆断鎗折鏃乃古戦地也唐山ノ
説ハ悉ク本草ニ拠テ牛馬人死血ノ凝結ス処
トス今憶フニ本州ニ所出ハ強テ戦地ト云ニ
非ス或ハ舊鷺魚鼈朽木悉ク夜光アリ燐火ノ
出ル地ナ洛京艸原火及摂州ニ根坊火河内州
姚カ火近江州油坊火等ヲ以其餘他州モ往往
多シ

長谷塲殿村ノ南ニアリ片田郷ノ内ナリ正税
二百卅九石津領ナリ

長谷塲ノ西ニアリ片田郷ノ内ナリ正税
十九石津領ナリ

長谷塲ノ東ニアリ正税二千四千六石津
領ナリ雑記ニ不載神風抄云二宮野田御厨
各二斗十二月

南河路野田ノ艮位ニアリ正税六百廿九石津
領ナリ河内川家所川ノ下流ニメ塔世川ノ水
上ニ南北ニ岸ヲ傍テ村邑アリ故ニ名ク

国立公文書館
National Archives of Japan

北河路　南河路ノ川ノ北ニアリ正税四百二十
四石津領ナリ
一色　北川路ノ北ニアリ正税四百四十六石津
領ナリ朝明及度會郡ニ同名アリ
跡部　一色ノ北ニアリ正税四百八十一石津領
ナリ和名鈔跡部ノ鄉ナリ属邑面跡部中跡部
アリ面アトヘハ本邑ノ乾位ニアリ中アトヘ
ハ本邑ト面アトヘノ中間ニアリ常村中アト
ヘノ巽位ニアリ鹿毛乾位ニアリ神鳳抄ニ云
面加茂御園
跡部一色ハ大和州生駒山中興開山宝山和尚
誕生之地ナリ和尚姓ハ山田氏延宝六年十月
十日始テ和州生駒山般若窟ニ入テ一筃ノ衣
鉢ヲ随身ニ樹下ニ趺座スル一日暮ニ及テ黒色
ノ大夜又来現ニ宝山ヲ提テ曰汝何ノ為ニ吾
清浄ノ山ヲ不潔ニメ経歴スルヤト喚フ宝山
心神瞑朦トメ忽氣絶セントス時ニ心中ニ不
動明王ノ呪ヲ誦スル処神力十倍メ如此喚フ
モノハ何者ト問フ夜又不對ノ遁シ去レリ其
後岩舟明神ニ詣ス一盤石アリ響ニ對問スル
夜又ノ肌膚ニ彷彿タリ是ニ拠テ明神ノ化現
ナルヲ知レリ一日里老来リ告テ曰當山ノ鎮
守弁財天女像近世此山下ニ安置ス宝山コレ
ヲ乞得テ祠ヲ修造ニ延宝八年四月一日ヨリ

五日斷食メ八万枚ノ護摩ヲ修ノ行ニ本尊不動
明王ヲ彫ス又自ラ弥勒佛像ヲ鋳テ般若窟中
ニ安置ス其外雲上閣ニ虚空藏菩薩ヲ安置ニ観
音院ニ観世音ヲ安置セリ星霜二十有年ニ不
至ノ一峯大伽藍ノ浄刹トス始ハ大聖不動寺
ト号ス後更テ宝山寺ト名ク近世無比ノ大行
者ナリ正徳六年正月十六日寂ス齢八十八歳
妙法特分部ノ北ニアリ安濃津府西一里正税
四百七十九石久居領ナリ度會郡同名アリ
式内大市神社旧墟 同處美濃屋川ノ傍字ハ
ス観音ト云ニアリ今ハ安濃津城南岩田村ニ
迁ニ建リ祭神ヲ大市比賣命 度會延經神名
帳考證云大市比賣神古事記云速須佐之男娶
リニ大山津見神之女名ノ神大市比賣生子大
年神次ニ宇迦之御魂神安東郡專當記云安乃
ノ津ノ市今安濃津河松社此乎此神商賣之所
崇敬也河松ノ河ヲ賣同訓松ヲ舛語渉ル於市
姫前有賣舛称之 度會正身神名帳再考證云
大市神社考證云古事記曰速須佐之男命娶大
山津見神之女名八神大市比賣生大年神次ニ
宇迦之御魂神按スルニ大山祇以下無形ノ神
也安東郡專當記云安乃津ノ市其処ニ大市姫
ヲ祀リシナラン此地考ヘガラス阿乃津河松
村ノ社ノ前ニテ舛ヲ賣ルコトアリ是古ノ市場

ニメ神社モ古ノ遺ルニヤ今詳ニスルニ延経
考證ニ古事記ヲ引徴メ大市比賣命ヲ祀ル即
安東郡專當沙汰文ノ言ニ安乃津ノ市ト載ル
ニ拠リ其安濃津ノ市ト指スハ今ノ河松ノ社
ナルヘシ商賈ノ人大市姫ノ名ニ拠テ崇敬シ
社前ニメ弁量ヲ賣ルノ例アルニ拠リ河ハ賣
ト同訓弁ハ松ノ轉訛ナリトメ其社ノ俗称ヲ
飾色スルニ至レリ正身再考證ハ各考證ニ所
引ニ従ヒテ此河松ノ地ハ上世ノ市場ニメ其
神社モ其時ヨリノ遺址ナルヘシト云前説ニ
倣テ別異ナシ然レトモ河松村ト標スルハ非
ナリ地名ニ河松ノ村邑ナシ後号ニ弁セリ上
ノ二考證ヲ案スルニ各當今ノ所在スル地ヲ
知テ其延喜式ノ時世ノ旧址ヲ知ルコトナキカ
故ニ此ニ言ヲ費スニ暨ヘリ上世ハ本郡妙法
寺村字大市尚ノ傍ノ村中ニ旧墟アリ方俗
ニ字ヲ蓮観音ト称スル旧ト此地ニ大市神社ヲ
奉祀スル処ニメ大市比賣命ノ神名ニ拠テ大
市神社ト称シ雲林院村ヨリ流出ル美濃屋川
ヲ此処ニメ大市河ト名ク各其神名ニ拠レリ
即ハス観音ト云ハ後ニ妙法寺ニ移シ安置シ
神社モ村邑モ廃メ其蹟ニ古松一株アリ河傍
ニ生スル故ニ河松ト称スルナリ後世此神社
ヲ安濃津城南岩田村ニ移メ旧名ヲ存メ河松

明神ト称ス大市比賣神社ノ名ニ拠テ市廓ヲ
設ケ幷ヲ賣ルト云妄言ヨリ起シ河松ハ買幷ノ
訛轉ナリト云俗苍説ニノ信スルニ不足古屋
草紙云大市神社大市姫命昔安濃津町ニハニ
アリ市町守護ノ神ニ拠テ買幷大明神ト号ス
此等ノ言各俗説ナリ安濃津上世ヨリ今ノ地
ニノ何ノ此妙法寺村ニ所置ト伝ハナシ二考
証此俗傳ニ拠テ今ノ岩田村ニ所迂ノ地ヲ論
ノ此ニ旧墟ノ存スルヲ不識ナリ衆名郡佐乃
富神社中臣神社今市廓ニ移スノ例ニ同シ季
世ニ至リ其源ヲ尋ル人ナシ博古ノ士能
ク弁知ノ後ノ昆弟ニ傳フヘキナリ

大市山妙法寺 同処ニアリ安濃津順礼札処
今称スルハ或慈雲山ト号ス本尊聖観音石佛
慈覚大師作ト云往昔ハ大刹ニノ今總ニ所建
ナリ此寺宇存スルニ拠テ妙法寺村ト名ク又
本邑ノ東三町計ニ大市ト称ス村落アリ今ハ
廢ノ妙法寺村ニ相合ノ其名モ失セタリト村
老ノ話ナリ寺号ニ大市山ト称スルモ此ニ孰
レ村邑及大市神社モ此時ニ廃セシナリ

浄土寺 妙法寺ノ艮位ニアリ正税百九十三石
津領ナリ 神鳳抄云浄土寺御厨二丁二反
同城址 同処ニアリ天正十二年豊臣秀吉織
田正野介信包ニ領属セシノ其臣守岡金介ヲ

メ守ラシム処ナリ

連部ノ浄土寺ノ乾位ニアリ正税二百五石津領ナリ

同城址ハ同処ニアリ天正十二年甲申豊臣秀吉ト志郡水造城主水造左衛門佐具康ノ撃ン為ニ本州ニ軍ヲ発ス時家所帯刀正藤高命メ砦ヲ置処ナリ浄土寺城ニ同シ

岡南連部ノ北ニアリ村主郷ノ内ナリ正税四百二石久居領ナリ神風抄云田中寺御厨ト丁ニ反耕田ノ字ニアリ此処ナルベシ

井ノ上ハ岡南ノ北ニアリ正税三百三十二石久居領ナリ志郡同名アリ村主郷ノ内ナリ

神鳳抄云村主寺御厨三丁三反餘

村主寺ハ同処ニアリ古昔村主郷ノ氏寺ナリ

和銅風土紀曰松岸寺寄田二十五九六毛ノ田

持統天皇六年壬辰八月役ノ小角開基之地也

安不動明王ノ尊像今詳ニスルニ村主郷ニ属メ同郡村主ハ隣比ノ邑ナリ古昔井ノ上モ村主ト同邑ナルヘシ故ニ村主寺ヲ存ス又松岸寺ハ今亡シ

村主　井ノ上ノ東ニアリ松林ノ間ニ民居ス村主郷ノ本邑ナリ正税二百三十四石津領也

和銅伊勢国風土紀曰村主郷公穀三百四十三束三畝七字ノ田五毛ノ田假粟百九十三九六

圍ノ田彦大豆小角豆琬宗豆朱米柴胡黄芪黄
芩地黄當帰梅梨茅出楮葉禽羽鞍靴書茅
村主神社 同紀曰圭田二十七九六字ノ田三
毛ノ田雑足彦天皇六年丙子二月所祭大山祇
命也今詳ニスルニ村主郷ハ和名類聚抄所載
ニメ旧名ノ存スナリ日本後紀第十九天長七
年六月辛亥曰女傳伊勢国人村主ノ宮道遠江
国人小長ノ直縷並補采女
内田 村主ノ民位ニアリ山林ニ傍テ民居ス正
税千六百三十石津領ナリ 神風抄云内田數
地一丁又下内田御厨外宮一石三斗外宮神領
目録云外下内田御厨一石五斗六九十二五宛

和銅風土紀曰内田郷公穀三百六十束假粟百
九十二九二圍出梅杏柿栗等今詮スルニ内田
郷ノ称ナシ往昔ハ内田近邑ヲ總裁セシナル
ヘシ
内田山長源寺 同処ニアリ天台宗本尊十一
面観音傳教大師菩提樹ヲ以テ彫ス長三尺三
寸方俗ニツ身堂ト称ス庭中ニ堂ノ右側ニ姥
櫻ノ大樹アリ春時ハ花葩爛熳タリ 和漢三
才圖會曰昔當地ノ人與日向国旅人會避暑於
堂ノ檐互不知熟睡ノ日暮有人倉卒呼起之両
人周章メ覚ム其魂入替テ而各還家面貌ハ其
人而心志音聲甚異也家人不敢昔両人共ニ然

り故ニ再来于此復熟睡則夢中魂八昏リ如故
諺曰伊勢也日向之物語者是也旧記曰推古天
皇三十四年三月壬午五瀬国並日向国言ス五
瀬国黄葉ノ縣佐伯ノ小経来死メ三日三夜而
蘇ル日向国小畠ノ縣依狭ノ晴戸ナル者同日
ニ死メ同日ニ蘇ル不知妻子及所栖村名五瀬
者語日向日向者語五瀬父子郷村名分明也其
身ハ雖我父心ハ即非我實心非父身ハ無曲父
亦以不為子顧ハ欲昏ト朝廷下符任父子顧仍
小経来至於日向晴戸至於五瀬知故而行業郷
名亦昏之 古屋州紙云昔日向国ノ剱術者ト
通夜メ夢ニ竈ノ入ルカハリニヲ傳ヘ如実名

アリ内田山伊勢七日あまりあるを詠をたゝるなりと
今詳ニスルニ本州ノ人ト日向国人ト夢ニ竈
ノ轉タル事蹟ハ雑和集ニモ和哥ノ故事ニ引
徴セリ稍ク異ナリ人国花万葉記ニモ載タリ
古屋草帋ハ方俗ノ謬傳ヲ聞ルマヽニ記セリ
妄アリ三方圖會ノ旧記ノ所載ハ稍ク本説ニ
似タリ然レ当寺ノ由来ナレ此旧説固有スル
カ故ニ此ニ設ケリ俗譚ナルヘシ会憶フニ菴
藝郡本郡ノ境椋本ヨリ萩野安濃内田ニ継テ
古昔ノ駅路ナレハ旅客ノ休憩セル処モ漫ナ
ラス今ノ地勢ニ従テ老レハ僻邑ニメ徃来ノ

客ノ至ヘキナシ故ニ今古ノ形態ニ拠テ想像
ルヘシ又伊勢日向ノ物語ト諺スルハ此事蹟
ニ非ルヘシ日本紀神代巻曰皇孫瓊々杵尊日
向国高千穂槵觸ノ峯ニ降臨ノ時猿田彦神此
国ヲ皇孫ニ献リ吾身ハ伊勢狭長田五十鈴川
上ニ退キ居ノヨヲ併セテ日向ト伊勢ノ旧物
語ト古昔ヨリ傳ヘタル処ナリ凡テ怪力乱神
ノ譚ヲ好事者流ノ所傳粗多ニ拘泥スヘカラ
ス因云小畠ハ今ノ三重郡小賀庄ニメ大治田
ト今俗称ス処ナリ其餘度會郡小俣アリ是旧
名宇羽西村ナリ古昔小畠名ナシ
大田内田ノ巽位ニアリ正税千二百六十三石

[illegible]津領ナリ[illegible]
曽根ニ大田ノ坤位ニアリ曽祢庄ノ本邑ナリ正
税五百六十一石津領ナリ神鳳抄云曽根庄
五丁五反又云曽祢庄四丁又曽祢久松御園一
石五斗久松別安部五反外宮神領目録云久松
御園一石五斗六月五斗九十二同前久松神
田三段上分三石五斗段別一斗宛勤之御園田
号久松神田古屋草紙云久松ハ曽根ノ字ニメ
無里ナリ今大木ノ松アリ椋本ノ西ヨリ曽根
安乃ニカヽリ古昔ノ街道アリ一志ノ駅ニ至
ル故ニ駅家ノ郷ニ属セリ今詳ニスルニ久
松ハ村邑ノ東ニ老古松樹アリ其地ナリ東鑑

ニ曽根庄返田ト載ル ハ按スルニ曽根ノ別名
ニメ久松神田等ノ名ナルヘシ駅家ノ郷ト称
呼スルハ謬ナリ駅家ハ和名類聚ノ所謂ハ此
郡ニ駅舎ノ地アリト標スルニメ駅家ノ郷名
ニハ非ルヘシ志摩洲英虞郡ニ餘戸ト載カ如
シ餘戸ノ郷アルニ非ス其本郡ニ隷リテ郷名
ハナキ嶋嶋ノ民戸ノ餘戸アリト是モ標スル
ナリ先賢ノ所解駅家餘戸ノ郷名トスルハ大
ニ非ナリ

慶照山長善寺 同処ニアリ馬頭観音恵心僧
都作 大日

清水 俗曽根ノ東ニアリ山林ニ傍テ民居ス清泉
アルニ拠テ名ク旧名泉ナリ領主ノ名ヲ諱避
テ更タリ其餘三重郡多氣郡ニ例アリ同ニ正
税九百六十一石津領ナリ度會郡同名アリ
神鳳抄云泉ノ御園外宮二斗 外宮神領目録
云泉上ノ御厨三斗安乃津ニ産スル綟子ハ村
主内田安乃太田等ノ村邑ヨリ女巧ニ織出ス
処ヲ本邑ニメ錬製メ紺及諸色ニ染出メ津府
ノ市鄽ニ賣ル処ナリ

法泉山江松寺 同処ニアリ本尊聖観音慈覚
大師作清水此寺ノ傍ニアリ

河邉 清水ノ南ニアリ平原田圃ノ間ニ民居ス

正税千四百八十五石久居領ナリ安乃川ノ際

ニアリ故名ノ或河部氏録セリ
光明山宝福寺　同処ニアリ本尊聖観音恵心
僧都作
長岡　河邊ノ南ニアリ平林ノ中ニ民居ス正税
五百六十二石久居領ナリ　神鳳抄云長岡御
厨内宮七丁六段三百六十九歩　外宮神領
目録云長岡御厨二斗三文御祭二斗勤之
渋見　長岡ノ巽位ニアリ山林ニ傍テ民居ス正
税六百三十二石津領ナリ
式内志夫彌神社　同処ニアリ祭神志夫美宿祢
王命　度會延経神名帳考證曰志夫弥神社鹿
葦津姫命木ノ霊在渋見村大和国志都美神社
同神上略阿ノ字夫ト字都音通ス山城国大原
江文神社江字屋通ス文ハ津女也大屋津姫命
載帳伊多太神社今考ニ伊多太社ハ山城国
高野村ニアリ矛カ姓子基考ト参ヘ考ヘレ古
事記ニ志夫美宿祢ノ王ハ非此神欤　又云伊
耶河宮巻若倭根日子毘々命開坐春之伊耶河
宮治天下也云云次日子坐スノ王娶山代之荏
名津比賣亦各苅幡戸弁坐セラル子大俣王次
小俣王次志夫美宿祢ノ工ニ度會正身神名帳
再考證云志夫弥神社渋見村ニアリ古支記開
化天皇ノ段ニ志夫弥宿祢ノ王者佐々君ノ祖
也姓氏録ニ佐々君ノ姓ナレ蓋脱レタルナラ

ニ此佐々君ノ氏当国ニ在テ其祖ヲ祭タルナ
ルヘシ今村中ニ東西ノ二社アリ里人東ノ方
ヲ当社ナリト云今詳ニスルニ延経考證ニ
志夫弥神社ノ名義ニ拠テ志夫弥八大和州志
都美神社ト同訓ニメ夫ハ都ト音通ス即志夫
美ニ同シ又葦津ノ上ノ阿ノ字ヲ畧志フ即志
夫ト通ス比賣ハ山城州江文神社ノ江ハ屋ノ
字ニ通ヒ文ハ津女ノ轉訛ナルカ故ニ大屋津
姫命ノ大ヲ略セルニヤ大屋津姫ハ鹿葦津比
賣ノ別号ナルニ拠テ江文モ志夫弥モ同義ニ
メ祭神鹿葦津姫命ヲ定祝ルト云ナリ或ハ志
夫弥宿称王ヲ奉祀スル為モアルヘシト疑フ
正身再考證ハ志夫弥神社ノ名ニ拠テ直ニ志
夫弥宿称王ヲ佐々君ノ氏族ノ祭リタルニナ
ヘシト云是考證ノ本説ヲ捨テ異説ヲ採テ解
注スルナリ式社案内記ハ延経考證ニ倣テ鹿
葦津姫命ヲ祀レリト云古屋草紙及勢陽雑記
拾遺等再考證ニ従テ志夫弥宿称命ヲ奉祀ス
ルトス此ニ端末決定シ難シ志夫弥神社ニ拠
テ村邑ヲ渋見ト名ク古事紀云孝元天皇段志
夫美宿称者佐々君ノ祖也開化天皇ノ子日日
子坐(マス)王ノ子志夫宿称ノ王ト見ヘタリ但志夫
弥志夫美王ノ名ニ拠レハ村落及神社ノ名奇
異ナル称ニ拠テ鹿葦津比賣ニ充ルハ考證ノ

言迂遠ノ臆断ナリ故ニ直ニ志夫美宿祢王ヲ
奉祀スル処ニ従フベシ今閲スルニ村邑ニ二
社東ニアリ西ハ方俗八幡ト称ス東之社域ハ
村落ヨリ巽ノ位ニ田圃ノ中ニ山丘ニ傍テ建
タリ是志夫弥神社ナリ再考證ニ所載ノ如シ
澁見砦址　同処山上ニアリ源三位頼政ノ裔
乙部兵庫頭源藤政居セリ織田上野介信包カ
為ニ同郡家所城ニ於テ自殺メ其趾ヲ亡セリ
旧ト津府乙部ニ住ス其処ニ旧址アリ宅舎ノ
遺址ナリ今民居ノ地トナリ乙部家系譜曰遠
祖摂津守源頼光五代孫三河守頼綱ノ孫兵庫
頭仲政男源三位頼政其子伊豆守仲綱其子肥
後守宗綱其子兵庫頭宗重馬場兵庫頭ト号ス
馬場山縣下間乙部大河内等ノ祖也乙部村ニ
歴代宅舎ノ地アリテ居スル故ニ乙部ト称号
ス本邑ニ有ル処ノ砦趾ハ永禄十一年織田信
長本州ニ侵メ北勢ヲ掠畧スルノ日防禦為ニ
此山ニ始テ築ク処ナリ雑記云西行ノ歌ト云
　春柳なる姫この山乃うしろ面よのりすりおけと糸の帷
此里ニハ古ヘヨリ梟多クアリト聞ユ古屋艸
紙ニハさうり田よ作レリ名所図會青柳ニ
作ル各非ナリ雑記ニ所載ニメ其餘異聞ナシ
然ルニ異ナル理ニ非ス妄也
観音寺　渋見ノ巽位ニアリ正税三百七十一石

津領ナリ同郡同名三処ニアリ観音寺存スル
ニ拠テ名ク
大御堂山観音寺　同処ニアリ本尊十一面観
世音智證大師作往昔ハ大利ニメ今其威儀ヲ
存スル或云津府観音堂古昔ハ此処ニ在タルヲ
今ノ地ニ遷スル故ニ大御堂山ノ号アリ古屋
双紙云栃徳天皇勅諸国観音菩薩ノ像毎国令
造大御堂洪水ニ流失メ今田地ノ字ニ大御堂
ト云処アリト止件ノ説ト小異ナリ
刑部観音寺ノ坤位ニアリ正税八百廿石津領
ナリ山林ニ傍テ民居スル内
福蔵寺　同処ニアリ寺傳曰多田満仲ノ男美
丈丸薙髪メ源賢僧都開基ナリ摂州河辺郡
多田庄西畝野村忠孝山小童寺藤原仲光及幸
壽丸美丈丸石塔アリ其寺説云当寺ハ多田満
仲公ノ家臣藤原仲光長子幸壽丸ノ旧蹟ナリ
満仲ノ御子美丈丸習学ノ為ニ仲山寺ニ登山
セシメ一向経論ヲ閲スルヲ嫌ヒ十五歳ヨ
リ勇猛ニメ山野ニ猟シ殺生常トメ放逸ノ行
ヒアリ父是ヲ聞父子ノ慈愛深シト雖モ豈一
人ノ為ニ法ヲ乱スヘケンヤ急キ美丈丸ヲ不
孝不義ヲ誅メ首ヲ疾見スヘシト是ニ殺多生
ノ理タリトテ仲光ニ厳命アリ今ハカナリ密
ニ美丈丸ヲ誅タル体ニテ獻山横川恵心院源

信少僧都ノ寺ニ登シ我子幸壽丸ノ首ヲ斬テ
主君ニ献ル美丈九モ忠節ヲ感シ修学ヲ励シ
出家シ源賢阿闍梨ト号ケシ御父ニ見ヘ幸壽丸カ
菩提ニ此寺ヲ創シ則源賢ヲ開基トメ小童寺
トソ号ケルト

納所 刑部ノ西ニアリ津府城ノ西十五丁平原
田圃ノ間ニ民居ス正税千四百十二石津領十
ヶ村神厨ノ昔ヨリ有ス処ニメ納米所ノ謂ニ
メ名ク本邑ニ神田四十八所アリ其中ニ神供
ニ調進スベキヲ毎春東作ノ時定メテ牛馬ノ
不潔ヲ禁シ人力ニ耕鋤メ秋ニ至リ旧テ外宮
神官ノ許ニ貢ス神田四十八所ノ高七十四石
三斗九升ナリ往昔ノ神厨ノ遺事ナリ高世
二石三斗二升全刑部村 三石七斗五升 野
田村 三石一斗七升 南川路 一石六斗五
升 北河路 三十一石九斗九升一合 納所
村 一石六斗 一色 二石三斗十田端止野
八斗 大塚村 三石九斗一升 小舟村
三斗分部 二石五斗 阪部村 合メ七十
四石三斗九合 此村石邑当リ本邑ニ收斂メ
神宮ニ献スルナリ故ニ納所ノ名アリ慶長廿
四己酉年十一月高二十三石九斗六升ノ領主
藤堂家ヨリ増加ス藤原高虎朝臣ノ時ナリ高
二石二斗四升 観音寺村 六石六斗 渋見

村　三石三斗六升　中跡部　十石七斗　内
田一石六斗　栗加村　合二十三石九斗六
升總高合九十八石二斗六升九合ナリ子々孫
々永々不朽ノ寄附状ヲ外宮神宦ヘ賜フ神
鳳抄云内宮内佐宇神田四斗九升二　徽古録
云納所ハ内佐宇ノ轉トス今考ルニ未詳ナ外
宮神領目録云当時御贄納所村数七俵半
御供山神宮寺　同処ニアリ本尊十一面観音
脇檀左ハ春日明神右ハ雨宝童子智證大師作
開基弘法大師本堂六間四面瓦葺ナリ大寺傳
云納所ト称スルハ開闢ノ時山林川澤井田ヲ
点撿シ玉フ処ノ丈尺ヲ準縄及斛ヲ三種石櫃
ニ入テ此堂下ニ収ル故ニ因テ納所ト名ク又大
神宮ノ御供魚ヲ安乃浦ニテ漁リ調進ス故ニ
御供山ト号ス又雨宝童子ハ　大神宮ノ本地
ニテ坐ス故ニ神宮寺ト号ス　大神宮当国ニ
御鎮座ノ後イツレノ比ニカ観音ヲ安置シ奉
ル奉祈念ル輩ハ小児疱瘡ノ病難患ヲ遁レ御
誓願ハ本ヨリ云フニ及ハス子孫永々所願ヲ
満シメ玉フ霊験ノ新ナルヿ響ノ音ニ應スル
カ如シ又此寺前ノ鳥井ハ大神宮古殿ノ鳥井
ヲ賜ハリテ建ル処ニメ是旧例也今詳ニスル
ニ當寺ニ神厨ノ地ナル故ニ澆季ニ至リ大神
宮造替ノ古鳥居ヲ用ル例ハ東鑑建久六年條

云相模国大庭御厨俣野郷内有大日堂是故俣
野五郎景久野依之梵閣也本佛ハ則権五郎景
政在生伊勢大神宮廿年一度造替之時伐取
彼心御柱奉造立之ト所載ニ雷同メ往々近国
ノ寺社ニ大神宮崇敬ノ餘リ其旧材ヲ乞得テ
堂社ヲ結構スルヿ俗習アリ今古ノ情相同シ
又神厨ノ上世ハ此地ニ收斂メ惣裁スル例ニ
拠テ後世寺勢ニナリタルナリ強テ大神宮
寺ト称スルハ私称ニメ神宮ニ拘ハリタル名
ニ非ス後昆ニ惑フ事勿レ

勢陽五鈴遺響安濃郡巻之三

神納　納所ノ坤位ニアリ正税四百十九石津領
十ヶ納所ニ對スル名ニメ神厨ノ税貢ヲ收ル
所ナリ古屋草紙云旧ト加納村ト云清和天皇
貞観十二年ヨリ神戸ニ加納ス此処ナリ今神
納ト書ス

神明山徳雲寺　同処ニアリ本尊馬頭観音智證
大師作

古川府城ノ乾位ニアリ正税四百二十三石津
領ナリ乾位ニ八町ト称ス坊間アリ一丁目ヨ
リ八丁目ニ到ル

長谿山観音寺慈眼院　同処ニアリ本尊十一
面観音毘首羯摩作
龍津寺　同処ニアリ禅宗　正覚寺　同処ニ
アリ西本願寺末浄土専念宗　法華院　八町
ニアリ
安乃津府　本州中央ノ府ニメ東海及諸道ノ大
神宮ニ詣スル宦道ニメ滄海ノ瀕ニアリ北ハ
菴藝郡ニ接シ南ハ一志郡ニ界メ本郡及鈴鹿
奄藝一志郡ノ郷民ニ聚テ山海ノ産ヲ貨
易シ志州及尾参州ノ海舶ヲ纜メ海錯産物
ヲ交易ス故ニ其地豪富商民多シ其坊間ハ艮
位ニ塔世川ヲ限リ巽位ハ岩田川ヲ限テ凡テ
南北三十丁餘民屋二千五百餘戸産物ハ綾子
布方俗ニ津綾子ト称ス領主日リ貢献セラル
佳品十リ曝木綿塔世川ニ製ス鑄匠所謂住昔
釜屋町ニ住セリ今稍ク産ス雑記所載ニ異ナ
リ煎茶三重郡菰野及鈴鹿本郡一志ノ山民ニ
ノ処ニ出ノ鬻ク其餘名品ト称スハ多氣郡川
上所知ノ村邑ヨリ産セリ竹筵方俗津篭ト称
ス魚鰕蔬店多用トス烟草袋近世紙糊ニテ製
スス又油紙ニ造ルアリ其外産貨多其坊間大略
ハ萬町　搭世町　西町　釜屋町　西来寺
町　中町　東町　西裏町　六軒町ニ出屋敷
榎ノ下　鷹匠町　門前町　京口町　西番町

竪町　宝禄町　新立町　北町　大門町　新
地　新東町　一丁目二丁目中之町　行
者前町　稲荷前町　千歳町　入江町　中ノ
番町　宿屋町　地頭領町　分部町　築地町
新魚町　山ノ世古町　南濱町　大世古町
魚町　藏町　新中町　堀川町　北濱町　片
濱町　極樂町　寺町　弓之町　久留嶋猿町
舩頭町　下部田　山上　余慶町　大部田
又古川　竜津寺前　裏町　八丁目ヨリ　八丁目ヨリ至
七ツ谷　七軒屋　馬場　福万寺通　南ノ町
道具屋町　油屋町　尼ケ淵　風呂屋町
南ノ世古　南片濱　北片濱　中濱

藩中ノ　東堀端　西堀端　南堀端　北堀端
玉置町　東撿校町　西撿校町　新道　西陳
町　中陳町　南陳町　松之下　一番町　二
番町　三番町　土手ノ下　五番町
此餘ハ　茶屋町　伊豫町　岩田町　綿打通
佐伯町　宮ノ前通　出口通　立合町　上弁
財町　下弁在町　藤枝一丁目ヨリ五丁目迄　阿漕町
八幡町等ハ部田及岩田村ニ屬ス　和銅風土
記田安濃津仁徳天皇三年乙亥定三津其一也
東方之蛮舩本邦公私之着舩湊入之舩各来于
此待其風雲拳国之名湊也去国府二百二十里
也冨饒徳有之地也准駅宿公穀減其三之二弐

備志日本考曰国有三津皆商舶所聚通海之江
也薩广州有坊ノ津筑前州花旭ノ塔津伊勢州洞
津惟坊ノ津為總路客舩ノ往還必由花旭塔津
為中津中国海商無不聚此地洞津為末ノ津地
方久遠図書編巻五十日本序曰紀伊之西為伊
勢注云北為三河其奥為陸奥為阿乃奴子今
詳ニスルニ津ハ古昔ヨリ称スル処ニメ明ノ
書典ニモ載テ海西ニモ称賞ス処分明ナリ実
ニ海内ノ通津旧古ノ地ナリ既ニ武備志ニ洞
津ト載タルヲ以テ今ニ称メ往々書傳ヘリ今
猶ホ洞ハ穴ニメアナツノ訓ナリ安濃ノ津
ヲ唐山ノ人訛リ傳名ルナリ北畠准后親房洞
津考ノ撰アリ同材親大納言ノ記ニモ載テ此
後号ニ録ス洞津考曰 神風や伊勢国ゝ常
世重波よる寄る処なれかまりの乃あれてと
うたひのこりをあれ聖代を頌ける歌ありて伊勢此かり往りほよ顕然
つたひ伝るものかりとおもひ家ともてゆき
くるるあんなほ小書洞ける世よ唐ノ奴頭
神志はしりて君を為洞津あるに花ほさせ結
ふうそをうたひ波やうたや称うをうを
此津ハ名ものうかりれをあや称式の
文あもあり代ニ乃和なよ多りを伊勢津亮
の作ニ神饒雄亮領せしとなん古記文ホ

…ふあり楠社…
のやうに称かき深社氏社…
は松の源風はまさく…
の柱高なかく…おそろうろぬやうに…
らんやうに頻改なされてあのはれ…
うなんと申せんうは…
るをかくうえさうれ…

前亜槐受月窓源房書古本借受中院家等
之訖全可称定本欤

天正元年二月 左中将判

平家物語第一云清盛イマタ安藝守タリシ時
伊勢国アノ津ヨリ舟ニテ熊野ヘ参テレヘ
ルニ大ナル鱸ノ舟ヘ踊リ入タリケレハ先達
申ケルハ昔周ノ武王ノ舟ニコソ白魚ハ踊リ
入タリケレハイカサマニモ是ハ権現ノ御利
生ト覚エマイラスヘシトモ十
戒ヲ持テ精進潔斎ノ道ナレ尺ヲ調備ヘ我
身ヲ食ヒ家ノ子等ニモクハセケル其故ニヤ
吉凶ノミ打ツヽキテ我身大政大臣ニ至リ子
孫ノ官途モ竜ノ雲ニノボルヨリハ猶ヌミヤ
カサリ九代ノ前ヲヤウ蹤ヲ越ヘ玉フコソ目
出タケレ又大平記巻二十所載結城入道忠
カ軍舩漂着ノ此津ニ事績アリ後号メ八幡宮
ノ條ニ詳ニセリ又豊臣将軍朝鮮征伐ノ時

軍船ヲ九鬼長門守嘉隆監令ノ此津ヨリ艤ノ
渡海セシ事蹟アリ　坂上仏伊勢大神宮參詣
記テ光明院康永元年十月十日アリノコロ
大神宮參詣ノ心サシアリテ伊勢ノ国安濃津
ト申所ニユキテ侍リシ程ニ故郷ニテ聊見侍
リシ人ノトヾメ申シカハ旅ノ心ヲモタスケ
ントテ両三日逗留ニ侍リヌ此津ハ江メクリ
テ浦遥ニシテ往来ノ舟人ノ月ニ漕ク声旅泊
ノ暁ノ枕ニキコエテアラキ波風ノ音ニノヒ
カタク侍リシカハ
風をだに残屋枕ぬるゝ袖こそ
本津川口ヨリ澳ヘ五町遠浅十リ十餘町澳ニ
大船カヽリアリ五町澳ニ漂アリ大潮ノ時百
石ヨリ以下ノ荷船ハ不入大船ハ大潮ニテモ
荷物ヲ下シ虚舟ニテ入ル岩田橋ヨリ二町東
ニ船入堀川アリ東北ノ風ニハ舟掛リ悪シ海
底干汐ニ真砂十リ川口ヨリ大部田浦マテ
舟行二十一町津深浦四五尺潮干ハ深四五尺
一志郡十五所マテ川口ヨリ七十半内二町半
ハ潮満上リニ深五六尺干詰ニハ干汐十リ其
餘六十ハ汐満上リニ五六尺干詰ハ干汐十リ
安濃津江戸ヨリ百二里半津ヨリ松坂駅路問
屋ヨリ松坂問屋ニ至ル四里八丁十二ケニ
安濃津府城　府治ノ起原ハ上古伊勢津彦命ノ

供奉ノ神饒雄彦ノ命領セシ処ニメ天日別命
ノ裔孫伊勢朝臣外護知府セシ事蹟洞津考ニ
載タリ中世ハ其詳ヲ得ス天延貞元ノ間桓武
天皇十代後胤出羽守平正衛三男帯刀長安乃
津三郎貞衡其子清衛平正盛平忠盛ト次第ノ
平氏歴代コヽニ居セリ旧ト城府ハ東海ノ瀬
ニアリ明應三年寅五月七日及同七年戌午
六月十一日ノ地震ニ十九町許海潮ノ為ニ沈
没メ海中ト変セリ故ニ波濤ノ難ヲ避テ今ノ
地ヘ移ス其時世俗所謂安乃松原モ島有ト
ナリ又其後六禄年中安乃城主細野壱岐守藤
原藤敦此地ニ城畳ヲ始テ築居セリ永禄十二
年織田掃部介織田信長令メ本洲ノ守護ニ
当城ニ居シム或云此時津町ヲ今地ニ近ク旧
地ハ阿漕田ト称ス又ト明年ニ掃部介ニ信長ノ
息茶筅丸後信雄ニ傳ヘメ南伊勢ニ移ル同十
二年乙巳上野介信包五万石ヲ給メ移リ居ス
侍従ト転任シ津ノ侍従ト称ス北畠物語云其
比長野上野介信包モ津ノ城ニ於テ同ク殿守
ヲ揚造ル神戸城ニ殿守ヲ揚タルト同時ナリ
同十三年豊臣秀吉ニ屬シ同十五年城濠石壁
ヲ堅固ニ修補ス文禄元年朝鮮役ノ後受領ヲ
没収シ二万五千石ヲ給メ江州ニ移リ薙髪メ
老賢ト号ス同嫡男民部少輔信良菴藝郡林城

ヲ領給ス一万石ヲ給食ス後叛心アリ行断滅
セリ天正七年富田左近大夫源信良同息信濃
守知信五千石ヲ給メ居ス慶長五年石田治部
少輔三成濃州関原役ノ時篭城ノ軍忠ニ拠テ
増知一万五千石合メ七万石ヲ領ス後伊豫州
今治板嶋ニ移轉ス十
長十九年伊達遠江守秀宗ニ給ス同年十三年
戌申藤堂和泉守藤原高虎伊豫州嘉多郡大洲
ヨリ移轉ス城壁稍修補ス其嗣大学頭高次又
元和年中櫛内湟壁及郊内寺修造次弟市郎モ
多久四方ノ郊外モ濶大ニ成レリ良位ニ観音
寺巽位ニ八幡社正東ニ古新ノ寺塔正面ニ納

所観音堂子位ニ塔世愛宕山薬師堂四隅鎮護
ノ設歴然タリ其嗣和泉守藤原高久其嗣大学
頭高睦其嗣和泉守高敏其嗣大学頭高般其嗣
和泉守高悠其嗣和泉守高敦其嗣和泉守高真
朝臣歴代相継テ領給ス城附本州十五万
石ノ内四万八千四百九十二石四斗一升六合
一志郡五万八千百二十一石五斗一升五
合安乃郡一万七千四十七石六升九合
安藝郡二万五千四百九拾一石二斗一升
鈴鹿郡八百四十七石七斗三升三重郡
外一万二千石山城国三万八千石大和
国十二万石伊豫国三千石下総国十

万千六十九石一斗八升　伊賀国　総計三十
二万四千六十九石一斗八升　本州乾位第二
ノ櫓尾ニ富田左近大夫信良ノ九曜ノ紋ヲ押
タル古尾一枚今ニ遺レリ旧主ヲ不悄ノ徴志
十リ　津城廻　正税三百二十三石
塔世　岩田属邑十リ　神鳳抄云安濃津御厨御
贄六九十二月在家別
恵日山観音寺　城東大手大門町北側ニアリ禁
札門ノ左傍ニアリ手水処門ノ左ニアリ惣門
仁三棲門民屋側ニアリ正面本堂右脇坊中本
願院　仙翁院　右ニアリ不動院同上知恩
寺同上末動明王愛染堂　八幡祠裏門　稲
荷祠　虚空蔵堂　梵釈天堂　其裏ニ夷天神
祠　左脇庭中右ニ水鏡天神祠　国府阿弥陀
堂十リ　恵恩院左ニアリ　大願寺右ニアリ
護広堂大室院ノ前ニアリ弁天小池右ニアリ
多賀明神神明稲荷祠右ニアリ千手堂同上
愛染堂同上　西口裏門　閻魔堂本堂ノ後ニ
アリ役行者堂右ニアリ山神祠同上　祇
園祠同上　本堂本尊如意輪観音石像秘仏伊
勢国順礼第十四番詠云
伊勢なる海清渚ふ舟うきをあみつくしてや
寺記曰元明天皇和銅二己酉年二月一日阿漕
浦ニメ漁夫ノ網ニ罹リテ出現奇瑞ナリ　天

照大神影向メ霊驗アリシテ獻聞ニ達シ勅ニ
應メ伽藍堂塔造立アリテ八百餘歳ヲ歴テ慶
長五年石田治部少輔三成逆乱ノ時當城主冨
田信濃守知信ヲ撃ニトス兵火ノ為ニ堂宇悉
ク燒亡シ本尊ノミ遁出メ無恙守護シ退ケリ
其後慶長十七年藤堂和泉守高虎朝臣本堂仁
王門造立アリテ寛ニ善美ヲ尽セリ真言ノ僧
房ヲ奄藝郡窪田邑蓮葉山六大院ヲコヽニ迁
シ其本堂観自在菩薩ノ供敬養ヲ尽サレム所
謂六大院本坊ハ太宝院ナリ其次列惠恩院不
動院本願院仙翁院大願寺知恩寺是ナリ古屋
双紙云大同二年漁父ノ網ニ罹リ出現ニヘル

時御贄ノ漁ヲ停メ御厨米ヲ更テ献シ
リ是ヨリ御贄ノ漁ヲ止ムト云又云六大院並
国府弥陀像ヒニ織田信包惠日山ノ境内ニ迁
ス毎歳二月一日ノ未明ニ修正會ノ法筵アリ猶鬼ヲサヘト云行事ヲ修ス此時年番ノ氏子青竹ヲ携テ曳イ〳〵ト喚ハリテ寺内ヘ入ル黍詰ノ群衆モ同音ニ曳イ〳〵ト大音ニ三次唱フ次ニ牛王何所頂載ノ儀式ヲ勢ム其次ニ延喜神名帳ヲ読ム供ヘ物ニ鶴ノ子ト及芥アリ各木ニテ形ヲ製メ鶴ノ子ハ梃ノ形似タリ後ニ鬼形ニコレヲ携シムナリ其後ニ伊勢三座ノ内猿樂勝田大夫来テ能三番ヲ勢ム能畢リ

テ後鬼押ヘノ神事ト云アリ其式庭ノ四面ニ大篝火ヲ焼キ堂中ヨリ螺ニ大鼓ヲ乱調ニ打出スヲ相図トシ濱ノ手壮年ノ者左右ニ列シ百人許各々髪ヲ被リ白双ヲ携ヘ曳イク声ヲ出シ本願院ノ前ヲ圍ム是ヲ鬼壓ト称ス濱ノ漁夫等コレヲ勢ム整アリテ松明ヲ前駈トシ毘沙門ト称ス具足ヲ着タル者大杪子琴柱ヤウノモノヲ持テ前ニ進ム次ニ鬼形ノ者二人ナリ同ク具足ヲ着シ一人ハ仲人ノ鶴ノ子足鉄槌サリ一人ハ件ノ斧ヲ持堂外ヲ急ニ走ル手桉ク者数十人棒棍ヲ打振テ敵ヲ拂フト称メ鬼形ノ前後ヲ追撃ニシ次ニ跡舞ト称メ狩衣ニ似タルヲ着シ烏帽ヲ着ニ鬼形ニ従フ是ヲ鬼ヲサヘノ者共棍ヲフリ喚叫ンテ二鬼ヲ撃ントス手引ノ者コレヲ防ンカ為ニ棍ヲ廻メ互ニ撃合フ頻サリ如斯スルヿ堂外ヲ三面ノ終ニ本堂ノ後ニ追ヒ上ル此鬼ヲ強ク撃ハ其歳必ス漁多ク撃得サレハ獲モノ少シト傳云トテ撃ンコトヲ謀ル此鬼ヲ勤ル者ハ従役ノ者ニテ過撃トイヘ𪜈遠亂謂マシキ由ヲ券ニ書テ雇ハルトナリ此式ハ旧昔出現ノ時悪来テ奪ハントセシヲ逐去タル遺事ナリ其具足ハ結城入道道忠カ遺物ナリトソ相傳フ諸国里人談所載ハ小異ニメ観音像ヲ竜神ノ奪惜

スルヲ追撃ノ意トス其餘近刋伊勢名所圖會等ハ今ニ同シ或云往昔当寺モ阿漕浦ノ海瀕ニアリ大神宮御贄所ノ称ニメ俗ニ一ノ厨ト云処ナリ明應年中波濤ヲ避テ今ノ処ニ移建タリ故ニ大神宮影向ノ説モ俗傳ニメ其謂アリ往昔ノ門前ニ鳥居モ標セリト云今ハ亡シ按スルニ納所神宮寺モ神戸ノ地ニメ今ニ鳥居ヲ建ルニ同シ蓬莱山六大院菴藝郡窪田ヨリ移メコヽニアリ寺領百石今ニ窪田村ニ六大院領アリ当院ニ收ムル処ナリ百五代後柏原天皇永正十七年庚辰六月山号寺号ノ勅額アリ其文曰蓬莱山六大院心王隨縁轉法輪處十界三密共成佛土又後奈良天皇倫旨曰法印二口権僧都二口権少僧都権律師各二口所被寄置当院也弥可奉祈宝祚延長者天氣如此又

當院事為御祈願處可奉祈天下安全宝祚延長者依天氣執達如件

十一月二日謹上六大院法印御房　左中辨

国府阿弥陀堂　惣門ノ西脇大宝院ノ右ニアリ

本尊阿弥陀佛当山国府阿弥陀畧縁起曰昔人皇九十代後宇多院朝南都西大寺律宗ノ大徳奥正菩薩ノ末葉覚乗上人持戒智德ノ高僧タ

り一夜覚乗大神ノ霊夢ヲ蒙リ当津岩田山圓
明寺ニ住ス常神明ノ新ナルコヲ感メ神ニ唱
念メ曰佛ニ體用アリ神ニ本地垂跡マシマス
願クハ本地ノ姿ヲ現シ玉ヘト一心ニ祈誓メ
毎日圓明寺ヨリ海上ヲ渉リテ大神宮ニ詣
スルコト既ニ百日ニ及ヘリ神明乃感應アリテ夢
中ニ告テ曰神前ノ御池ニ来ルヘシ我形ヲ顕
セント覚乗夢覚テ破暁ニ池ノ辺ヲ望ニ垂跡
ノ御形長一丈餘ノ蛇形金色白眼ニメ池上ニ
現ス覚乗ニ驚怪テ曰和光同塵ノ利益本迹等
シトイヘ𪜈濁世末代ノ衆生ハ彼ヲ怖畏メ末
信モ生スヘシト云テ袈裟ヲ脱テ抛カケ蛇形ニ
掩フ則袈裟𪜈ニ池中ニ没ス覚乗三七日参籠
メ願クハ本地ノ佛相ヲ拝セント祈誓ス神明
又告曰衆生ヲ利センカ為ニ吾佛師ト変メ弥
陀ノ尊形ヲ作リ妙観察智ヲ心中ニ招キ入レ
九品ノ引接ヲ印契ニ現ニ草堂ニ安置スヘシ
リ北国府ノ阿弥陀如来アリ則朕カ本願是ニ
当レリ往テ彼ヲ拝セヨト告玉フ覚乗踊躍メ
国府ノ無量壽寺ニ来到メ寺僧ニ夢ノ事ヲ告
ク寺僧曰我モ告アリ
ヲ乞フヘシ吝嗇スヘカラストナリ古今秘佛
トイヘ𪜈開扉スヘシトテ覚乗尊像ヲ拝スニ
頭上ニ一物アリ近ク見奉ルニ以前御池ニテ

掩ヒ奉ル大哉解脱ノ袈裟ナリ覚衆感涙ヲ流シ寺僧モ共ニ倡仰スル末世ナリト雖モ佛意違フコトナク神慮偽ナシ美盖国府弥陀天照太神ノ御本地ナルコト誰カ凝滞セン覚衆袈裟ヲ取テ三拝メ其後神明ノ宝殿ニ収ム是ヲ見聞処々遠近ヨリ来詣メ門前市ヲナス阿弥陀ハ則和光神明ノ本地弥陀ヲ離テ神明ナシ神明ナシ神明ノ外ニ弥陀ナシ弥陀ハ三世ニ遍メ浄穢ノ万類ヲ化度シ神明ハ二義ヲ司トリテ陰陽ノ両端ヲ照ス誰人カ仰テ所求成サヽン何物カ信メ利益ヲ蒙サヽン因茲仏名ヲ唱ル輩ハ現世無跡神明ノ加護ヲ蒙リ息災延命福寿増長子孫栄ヘ来世ハ本地弥陀ノ来迎引接ニ預リテ上品ハ蓮ノ臺ニノホリ快楽自在ナラン事無疑者也仍縁起敬白　今訪詮スルニ遠江州笠原庄佐倉村櫻池ニメ源皇阿闍梨肥後阿闍梨ト号ス獄山三塔一ノ名匠也生ナカラ弥勤出世ニ逢ンコヲ希ヒ人寿ノ短キヲ患テ竜蛇ニ化メ池水ニ棲タルヲ弟子法然上人謁見セシノ類ニ比メ縁起寺記ノ輩ハ此説多シ阿弥陀佛傳来ハ伊勢路名所図會ニ国府阿弥陀ハ當国鈴鹿郡国府村上ヘ寺山ニ安置ナリシヲ寺字荒廃メ尊像雨露ニ朽ンコヲ惜ミテ延宝ノ頃カ當寺ノ境内ニ捨行シナリ縁起アリトイヘ𪜈

国府村ニテ云傳ヘトハ違ヘリイツレモ旧記
ナシ云云名所図會刊行ノ時撰者籬島舜福本
州ニ来遊ノ識者ニ傳聞メ録セシ処ナリ上ヘ
寺ト字ス寺趾アリ古昔無量壽寺ト称シタル
ヤ未詳上件ノ久保田安養寺上野村安養寺ノ
茶湯ノ設又岩田圓明寺ノ縁起寺説等奥正上
人ノ時ハ習合ノ説アリテ甚妄ナリ孰レ神宮
ニ参スルノ路傍ニメ詣人ニ供敬セシムルノ
設ナリ寺記ハ雑記ニ詳ニストイヘトモコヽ
ニ贅メ孟浪ヲ標スルナリ

大平山上宮皇寺　寺町ニアリ本尊聖徳大子十
六歳像自作　大子二歳南無佛像俗針立ノ像
ト称ス太子勝鬘経講説像大子繪傳六軽巨勢
金岡筆　阿弥陀佛一軀聖徳太子作　雑記所
載往古古跡傳曰和銅年中草創ナリ根本ハ律
宗開山未詳今一向高田宗　開山親鸞上人本
州化導ノ時当寺住侶西信法師上人ニ帰依渇
仰セシヨリ以来念佛專念宗ト改ム又高田專
修寺第三世顕智上人暫ク休退シ開但親鸞上
人ノ影像ヲ造置ク処ナリ故ニ今ノ本尊ハ阿
弥陀佛ナリ高田宗中奥西信法師智忍法師法
泉法師性泉法師妙教法師真誓法師恵教法師
慶練法師権大僧都慶忍法師権少僧都慶聽慶
信法師　慶長五年石田三成逆乱ノ年旧記什

賞等賊兵ノ為ニ奪掠フル上件ノ什宝今纔ニ
遺レリ　古屋双紙云舒明天皇ノ時此地ニ紫
雲靉ク故ニ皇太子一寺ヲ建テ紫雲寺ト号
ス推古天皇ノ朝上宮寺ト更ム　院内ニ阿漕
祠アリ鎮守トス所謂阿漕某ハ当寺ノ檀越ニ
テアリシ故ニ其霊ヲ祀ル毎歳七月十六日法
會アリ方俗阿漕寺ト称ス今詳ニスルニ太子
傳ニ紫雲寺アリ一説ニ聖徳王此処ニ経廻ノ
創立シ玉フ処ナリ紫雲寺ノ名ヨシ拠レリ
然レハ太子降誕ハ敏達天皇即位二年癸巳正
月朔日ナリ推古天皇廿九年二月五日薨ス然
ルニ舒明天皇即位ハ薨スルノ後ナリ太子ノ
創建ノ理ナシ又推古帝ハ舒明帝ノ前ナリ何
ソ後ニ建タル寺号ヲ前朝ニ改號ノ哀アラン
ヤ其妄傳ヲ識ヘシ又阿漕祠ハ当寺明應七年
以前ハ阿濃浦ニ存メ波濤ニ漂滅ノ後ヨ、ニ
迁セリ故ニ阿漕明神ト称ス其遺ヲ祀レルナ
リ尚阿漕ノ事蹟ハ後号ニ詳ニス

龍宝山西来寺　寺町上宮寺ノ北隣ニアリ真盛
念佛宗江州坂寺西教寺末本尊阿弥陀佛　寺
傳云延徳二庚戌四月当津ニ念佛堂ヲ建立ス
当国三箇寺ノ第一ナリ同四月十三日千日供
養畢テ同廿五日夜住侶盛算法師ニ貴女一人
忽然トメ来告テ曰吾竜王ノ使ナリ当寺佛殿

造立ノ法施トテ青銅一緡ヲ投ス一首ノ和歌
詠メ一紙ヲ遺メ其行方ヲ失ス
奇特哉不思議なるうたこの寺をいそぎて建め人そ拝つる
如斯竜神ヨリノ勧ミヨリテ当寺ノ佛殿ヲ建
セント企テ其材ヲ聚ムルニ或日雲出川ノ流
矢野ノ淵ニ年歴タル埋木アリト告ク拠テ里
人ニ乞テ其材ヲ曳ントスルニ動スヿ不能或
ハ念仏ヲ誦メ曳ヘシト教ルニ随テ異口同音
ニ称名念佛メ曳ケレハ輙ク引ヨセテ此一木
ヲ以テ五堂ヲ造営スト云旧記云長享三
年己酉八月廿三日改元号延徳三月廿三日従
三日至廿八日真盛参内於長橋局談申提婆品
講釈出御簾中也直衆構庇雑人等庭上群
集不可然事也但佛法結縁利益無量平等各受
十念自廿三日講談聴聞朝夕二座也事託退
出于時日没程也廿六日参内於勾当内侍法談
聴聞同前今日於真盛上人旅所有圓頓戒此上
人不取布施以断物為布施中暑皈宅後又参内
法談聴門又参内法談聴聞室町殿早々可被
果之間今日及三座従一位征夷大将軍右近衛
大将源義奥元號義尚廿五歳薨廿七日参内
法談聴聞提婆品結願也
右一ツ巻物後土御門院御宇真盛上人於長
橋局法談等之事書蓮院御門跡記録抄出也今

度依西来寺真厳懇望賜之也自長享三暦二百
七十歳也而今更一宗知之寔佛法冥感者欤
青蓮院宮御氣色錄出之託　宝暦八寅年二月
十一日　法印大和尚位判右法印大和尚位八
島岳小路大藏卿法印ナリ手筆ハ大谷宮内郷
ナリト役者中物語ナリ西来寺ヘ被下写　真
盛上人ハ本州一志郡ノ産ナリ後号一志郡大
仰ノ條ニ上人傳ヲ載ス宝暦五年亥三月中旬
尾州八事山興正寺諦忍律師当寺ニ詣メ国師
ノ繪傳ヲ拝シ偈ヲ奉リテ云
傑出緇林圓国師　化門大開震雄風
感時暗滴数行淚　手棒塊樓焚火中

事山杜多　諦忍草

今詳ニスルニ寺傳ニ謂竜女化現ノ一ハ洛東
荘厳院東福寺中ニ双蛾石アリ聖一国師ノ説
法ヲ池竜出現ノ聽聞シ其趾ヲ遺ス又摂津州
有馬郡母子村永澤寺竜女聞法ノ縁起又上古
竜女聽法ノ一称法藏傳元享釈書等ニ載タリ
往々其説ヲ設ケハ浮屠氏ノ常談ナリ当寺旧
ト上宮寺ト同ク東ノ海瀕阿漕浦ニ存セシナ
リ明應年中ノ湮滅ヨリ趾ハ塔世川ノ下流中
川原村ノ北濱ニ西来寺屋敷ト云旧地アリ其
後今ノ城門ノ南西来寺町ト称ス地ヘ移シタ
ルナリ伊勢兵乱記云慶長元年富田信濃守知

信當城篭居ノ時東ノ九八榊原左京二ノ丸西
來寺只分部左京亮カ堅メタリト所載ニメ城
湟修補ノ時今ノ寺町ニ迂セシナリ故ニ旧址
ヲ西来寺町ト称ス今城門ノ南中町ト京口町
ノ間ニアリ永照山真光寺　寺町上宮寺ノ南
隣ニアリ　旭曜山彰晃寺　同処真光寺ノ南
隣ニアリ　地嶋山天然寺　同処天然寺ノ南
隣ニアリ浄土宗本尊阿弥陀佛　光徳寺　同
処天然寺南隣ニアリ東本願寺末浄土一向宗
寒松院　同処光徳寺南隣ニアリ天台宗
城主藤堂家歴代香華所ナリ　利昌院　同処
寒松院ノ南隣ニアリ　浄明院　同処天然寺
ノ裏乙部ニアリ　妙雲寺　入江町寺町ノ北
角ニアリ庚申堂　同処ニアリ　明周院
同処ニアリ　専琳寺　尼ケ淵ノ北ニアリ西
本願寺末浄土専念宗本尊阿弥陀佛万松山ト
号ス　天沢寺　新東町二丁目稲荷前通ニ有
華宿院　南濵ニアリ　不動院　分部町ニ
西蓮寺　北町北側ニアリ浄土宗本尊阿弥陀
佛　報恩寺　万町ニアリ　謝徳山ト号ス高田
専修寺末高田宗開山高田中興真恵上人ノ髪
弟玉蔵坊　乙部兵庫頭藤政香華所ナリ旧ト
中川原村ニアリ後此処ニ移メ其旧址ニ潮音
寺ヲ創立ス其地ニ乙部藤政石碑アリ銘曰青

雲院殿春嶽藤政大居士其地ニ山本氏ノ農民
ハ乙部氏ノ後裔ナリト云テ今潮音寺ノ檀那
ニメ当寺ヨリ兼帯ス天文十五年二月第二
世少仁房ヘ四ケ處ノ田地寄附ノ旧案及藤政
ヨリ音信荅禮ノ昏輪幷アリ什賛トス福満
寺同処ニアリ大雅堂所書ノ石碑文アリ季札
カ釼ニ比セシ説アリ元三大師堂分部町ニ
アリ南西側ニアリ東都東叡山上野元三大師
ハ旧トコヽニ安置セシヲ移メ此処ハ再ク擬
像ヲ安置セルナリ年月未詳延命山福満寺
西裏町福満寺通りニアリ真言宗金臺寺
同処西隣ニアリ蓮花院明覚院釜屋

町ニアリ修驗派ナリ祇園社稲荷祠新
東町一丁目ニアリ行者堂同処行者前通
リニアリ天神祠入江町通寺町西来寺ノ
北ニアリ青木社寺町天然寺ノ裏ニアリ
稲荷祠同処光徳寺裏ニアリ牟山社
北濵町ニアリ山ノ神祠西裏榎ノ下ニア
リ富士権現祠新魚町ニアリ
塔世川城北ニアリ宦道ニメ土橋ヲ架セリ水
源ハ木郡河内谷ノ内樂鹿野北畠ノ山中ヨリ
流テ雲林院ニ至リ美濃夜川ト称ス萩野ニ至
リ野口ヨリ出ル二派ト一流トナリ安乃ニ至
リ安乃川ト称ス曽根跡部ヲ歴テ家城川ト一

派ト十リ南河路北河
リ納所川ト称ス古川及府城ノ北ヲ歴テ塔世
川ト称ス中川原ノ北ヲ歴テ東海ニ入ル然レ
ド上世ハ今ノ地境ト異ニメ南ヘ流レタルナ
ルヘシ其故ノ海瀬ト川ノ中間ニ居ス故ニ中
川原村名アリ今古ノ異ヲ想像スヘシ
式内比佐豆知神社 塔世川橋ヨリ四丁許乾位
ニアリ箕手山ノ上ニ坐ス小祠也津岩田大市
社ヨリ北廿五丁祭神未詳
塔世山四天王寺 塔世川ノ北茶屋町ノ西側ニ
アリ曹洞禅宗越前州永平寺末本堂本尊大日
如来脇檀弥陀釈迦及四天王像ヲ置中門惣門
右ニ禁牌葷酒左右ニ穴門アリ左青龍門右白
虎門ト題ス其右ニ領主ノ高札アリ奉行名署
十リ正面本堂佛殿右客殿左庫裏方丈アリ左
ニ塔頭中門ノ右ニ小門アリ小池右ニアリ芭
蕉文塚其前ニアリ右ニ鳥居祇園祠八王子此
処ヨリ山上ニ秋葉権現中堂本尊薬師如来南
向其右ニアリ手水處中堂ノ右ニアリ太子堂
聖徳王像ヲ安ス祇園社ノ向ニアリ西向ナリ
蓮池太子堂ノ右ニアリ池中弁財天祠亀塚天
神南向堂弁財天ノ右ニアリ竜灯松天神ノマ
ヘニアリ寺記曰人皇三十代用明天皇御宇
聖徳太子誅罰守屋大連之時初守屋軍兵刖盛

而家塡野溢太子軍勢失利三敗此太子謀不及
人力之處則刻四天王尊像而推向背陳發誓願
曰今使我得勝利然則為尊像必須奉建立寺塔
也諸卒信願一致而競起合戦忽感應威力乎大
連軍勢悉敗北而終誅守屋故於日域建四箇天
王寺当寺其一也一者在摂州其餘二者未聞在
于何地疑是後世為別号哉或曰每郡建立一箇
寺謂之国分寺云云崇本尊大日如来左右弥陀
釈迦及四天王鎮護之也其外佛像不可勝計也
就中灵驗無双之薬師堂一宇而已無憂堅固也
餘皆為天災災上或為兵乱壞却而堂舎院宇亾
失矣住佰或三論或律相交相勢矣其後久安三
年藤原景通再興寺院此時棟札今在薬師堂縁
其后悉七兵衛景清加修補云云尓頃寺領五百
貫附属焉又時移物換堂舎僧坊将及退轉則永
享八年後花園院曹洞永竜禅師盍法務於一帋
半銭卜草庵以来継坐禅道場於是俗呼号山菴
偶至曹洞家住今既十七世也開山洞正海孝大
禅師中興開山不異竜大禅師永享八年勧進
状云請時蒙十方檀那助縁勢州安乃郡塔世山
四天王寺本堂再隆勧進之状夫本分之田地
者虚空為本尊身心為會場現成之佛閣法界為
仏殿須弥為本尊逆則為凡夫悟則為諸佛凡夫
薄地日用不知故佛出世而示此旨不構有漏蘭

若者難成無漏之利益焉抑当寺者聖徳太子之
御建立霊験無双之勝地薬師如来医王誾逝之
尊體也加之平家侍悪七兵衛景清再興所也付
之有七種之不思議灯明出現之御舎利者顕瑠
璃妙薬度人天堂軒雨滴不零者世界五大融現
無相也宝塔飛行旧蹟者本分空理之當相也池
中蝦蟆不鳴者表坐禅安閑之義相半夜之竜灯
恭詣者運向上結縁之懇志江河之満塩不登者
納生死之流浪水面竜宮所出之椎鐘者覚無明
長夜之睡何木来空有源万法現離人工天地同
根万物一體人人具足箇々旧成之妙理目前之
境界也干尒半有相之堂舎亲而如顔渕之儻似
原憲扃爰有獨居士蓬芝茅草創拂雖続既絶跡
資粮令而破壊最甚矣依之沙門欲為自植善苗
為他成大果仍有縁門戸乞随分奉加一粒米難
喫一滴水難消誰哀此衣鉢不投半銭半粒八万
田旬之高山従微風起七十餘巻之経教従半字
始所聚之功力豈可量乎然則信不信檀那現世
旨被富貴栄果之益当来者磔金銀瑠璃蓬臺仍
勧進旨趣如件

永享八年九月吉日　沙門敬白

曹洞開山正海孝大禅師　第二世明室燈禅師
第三世国巌邦禅師　第四世水庵泉禅師
第五世静安騰禅師　第六世三應寅禅師

第七世 中明的禅師
第九世中興不異竜大禅師
第十一世一峯洞禅師
第十三世功雲作禅師
第十五世月海珠禅師
第十七世暉州曠禅師
什賛 臨済禅師自畫讃六祖像二幅一對 絹地墨画
唐筆十六羅漢墨画 十六幅
空山筆達磨像 一幅
王義之大文字 二幅對
東坡筆墨竹 一幅
雪舟筆観世音中尊 鷺左蓮右 三幅對
第八世大仙智禅師
第十世無隠有禅師
第十二世綱菴祀禅師
第十四世真菴達禅師
第十六世南菴舜禅師

唐筆達磨像中尊 竜左虎右 三幅對
彩色涅槃像 一幅
天災兵革ノ為ニ堂塔及経巻書典校割ノ器財
等悉ク烏有トナリ今絶ニ遺レリ
北畠権少将国永家集 詠薬師和歌
薬
師
瑠

瑞
うす雲と語き水もも
新枕その面影をこひ
光
青の月日をふる
如
罗陽の神もたゝ
来
いかる日もさ
古意趣者眼病頻労不分昼夜痛切既如盲当時
客来曰爰班鳩大子之草創号四天王寺有鎮座
医王之霊像厳而経九百餘歳星霜従尓以降七
不思議之玄妙倩以不異難波寺時令満衆病悉
降之願給事瞬目之間予聞之荅綴和哥祈之得
分明於意之照覧不顧俗之嘲哢者也
元亀三年閏正月廿一日　沙弥桂祐敬白

古屋草帝云中奥ノ時藤原大納言景光卿本堂
鐘楼建立也殿宇八男加賀ノ景清奉行ス銘曰
久安三年丁卯三月四條天福三年歟山懐荘東
遊到此寺持黄金誕生佛安醫王殿寺王不傳覩
荘風度不允留以供養遂為叡一菴而荘于爰令
居長極不卧定不踰国人謂山庵故佛已而復飛
錫去荘号弧雲即道元和尚嗣子也神風徴古録
云聖武諸国ニ詔メ四天王護国寺法華滅罪寺
建ニム此国帝都ニ近キヲ以諸州ヨリ先ニメ
早ク建立ス帝崩御アリテ何トナク此ノ罷ラ
ルヽカ他国ニ此類甚少シ一説ニ太子御建立
ナリ　雑記所載文禄三年

信重又作信包

正月七日織田信長ノ母堂逝去当院ニ葬リ廟所及位牌今ニアリ花屋壽栄大禅尼ト号ス依テ織田上野介信兼当城主タリシ時寄附寺領二百石此時住侶功雲僧房昔ニ還ルト頼母シカリケル折節ノ為ニ堂宇経巻書籍等校割ノ器財ニ至リ悉ク焼失ス薬師堂ハ内外堅固ニアリ其後富田信濃守城守ノ時寺領五十石寄附アリトイヘ共信兼ノ寄附モ絶ヘ火災アリテ後ハ寺院滅亡セントスルノ時ナレハ富田ノ施領微ナリトイヘ共急ヲ救フノ功最厚篤ナリ慶長五年石田治部少輔逆乱之時信濃守知信故アリテ篭城合

戦数日ニ及フ其時当山寺外院裏ニ皆寄キノ陣処トナリ塔頭小菴ノ啰斉ノ具ニ至ルマテ賊兵ノ為ニ乱失セリ鳴呼惜哉数百年ノ宝物大半分散セリ元和五年太守高虎朝臣堂舎再修及一山ノ斉領二十人扶持ヲ寄附シ此時住侶月海禅師ナリ其後莫二代高次朝臣ノ時ニ至テ寛永十三年客殿修補ノ為本丸ノ古殿十二宇寄附セラル此時住侶南竜禅師ナリ又明暦二年ニ前代ノ斉料ニ増加シ高百石永ク寺領ニ附セラル住侶晫州禅師ノ時ナリ一山ノ制札前代ヨリ奉行職ニ命メ建ラルニヨリ満山無事ヲリ其后雨露ノ為ニ朽テ文字モ滅消

ル如ク十り高次朝臣継体ノ業ヲ発シ月海住
侶以来大守ノ芳恵ヲ得ルコト多シ南竜住侶ニ
至リテ寺宇繁栄ノコト多シ睥州ニ至リ叢林古
昔ニ循還メ客殿惣門鐘楼庫裏ハ南竜睥師ノ
代ニ造立アリ今ニ至リ如此シ客殿本尊坐像
釈迦佛ハ傳教大師霊作ト云洛西嵯峨氷室山
下ニ二ノ閑道人アリ恵日道西禅師ト号ス壮
年ヨリ悟道徹得ノ比丘ナリ寂スルニ及テ遺
傳ノ事アリ正保三年当寺ニ入佛住侶睥州禅
師ノ時ナリ入佛ノ供養ヲ遂行タリ今詮ス
ルニ用明天皇朝聖徳王摂州東生郡荒陵山四
天王寺敬田院ヲ草創ヨリ洛陽六角堂及四十
六院ノ建営ハアリ然レ四天王寺ノ號ハ陵山
ノ外更ニナシ日本書記及太子本願縁記太子
傳等ニ所載ナシ今古屋双帝等ニ聖武天皇四
天王護国寺ヲ建ル意幾ニ近ク故ニコヽニ速
ニ建創セラルノ見解アリ聖武帝朝ニメ用明
ノ朝ニ非スト謂ハ稍ク是ナリ然レ四天王
護国寺ヲ此寺トスルハ非ナリ其徴続日本紀
ヲ挙テ睨ス 続日本紀第十四聖武天皇天平
十三年正月乙巳詔曰朕以薄徳忝承重任未弘
政化寤寐多慚古之明王皆能先業国泰人楽災
除福至修何政化能臻此道頃日年穀不豊疫疠
頻至憖懼交集唯労罪己是以広為蒼生遍求景

福故前年馳駅増飾天下神宮去歳普令天下造
釈迦牟尼佛尊金像高一丈六尺各一軀并写大
般若経各一部自今春已来至于秋稼風雨順序
五穀豊穣此乃徴識啓願灵貺如荅載惶載恐以
自寧安也　経云若有国土講宣讀誦恭敬供養
流通此経王者我等四王常来擁護一切災障皆
使消殄憂愁疾疫亦令除差所願遂心恒生歓喜
者宜令天下諸国各敬造七重塔一區并写金光
明最勝王経每塔各令置一部所冀聖法之盛与
天地而永流推護之恩被幽明而恒満其造塔之
寺兼為国花必択好心可久長近人則不欲薫鳧
所及遠人則不欲労衆歸集国司等各宣務在厳
飾兼尽潔清近感諸天庶幾臨護布告遐迩令知
朕意又毎国僧寺施封五十戸水田十町尼寺水
田十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明四
天王護国之寺一十尼其寺名為法華滅罪之寺
下畧又第二十天平宝字二年六月戊戌勅為令
朝廷安寧天下大平国別奉写金剛般若経三十
巻安置国分僧寺二十巻尼寺十巻恒副金光明
最勝王経並令轉讀此二拠テ謄ルニ第一ノ金
光明寺大和州東大寺ナリ金光明四天王護寺
ト号ス又一名大華厳寺又恒説華厳寺又国分
寺ト称ス佛法傳通記ニ載タリ和州ノ国分僧
寺ナリ又国分尼寺ハ添上郡法華寺村法華寺

即法華威罪ノ寺ニメ今ニ至リ女僧ノ接スル
処ナリ然レハ金光明四天王護国寺ハ国分僧
寺ニメ當寺ノ事蹟ニ非ス既ニ本州ニ河曲郡
国分村ニ国分僧寺アリ飯高郡伊勢寺村ニ国
分尼寺アリ其遺蹟歴然ニメ前記ニ所謂ノ近
人則不欲薫鳧所及ノ勅旨ニ拠テ名僻遠幽處
創立スル処ニメタトヘ後季ニ至リテ市閭俗
塵ニ汚ル処ニ非ス凡テ古祠旧刹ヲ論スルハ
其地勢ヲ閲メ上古ヨリ誓テ弁スヘシ今詮ス
ルニ四大王寺ノ名ハ旧シ又薬師佛モ然リ或
曰中堂薬師如来尊像ハ旧ト塔世村ニアリ傳
教大師真作ナリ往昔當寺ニ移セリ又縁起ニ
所謂久安三年藤原景通再興寺院其後悪七兵
衛景清加修補ト又勧進状云平家侍悪七兵衛
景清再興所也ノ謬傳ニ拠テ古屋双紙ニ藤大
納言景光卿建立殿宇ハ其男加賀介景清奉行
スト考正スルモ又妄ナリ久安三年丁卯三月
加藤修理進景通此堂ヲ中興シ其男加藤五郎
景清修補メ寺領五十貫寄附スル所傳アリ加藤
修少進景通ヨリ加藤伊勢守光貞ニ至リ當国
ニ居住ス遺址アリ同郡下部田及河曲郡柳村
ノ條ニ詳ニセリ某師堂ハ孰レ旧刹ニメ久安
年中ノ再興メ設モ然リ四天王寺モ旧昔ハ大
刹ナリシヲ後ニ中絶メ廃セシニヤ今ノ曹洞

禅宗ノ嗣法傳燈ハ同郡長野廣大山千平寺ヨリ傳来ナリ又名所圖會ハ四條院天福三年歳山快然律師東遊メ黄金誕生佛ヲ得當寺醫王殿ニ安置ス時ニ寺主傳サルニヨリ快然一菴ヲトテ住セシカ又錫ヲ飛メ北越ノ永平寺道元禅師ノ嗣トナル是ヨリ當寺ニ禅宗ヲ傳ヘリト云今按ニ是古屋双紙ノ説ヲ傳テ標セシナリ雜記所載塔世山四天王寺俗云山ノ菴此言ニ拠テ慶長五年冨田信濃守知信津城篭居ノ時毛利豊前守長束大藏大輔等ト挑戦ス伊勢兵乱記ニ載タリ其條云信乃守コレヲ見テ山庵ノ前大路ヨリヨセ来ル兵共綾井育田カ引退クヲ見テ附隨フテ有ヘキソ急キ穢多カ下ヘ馳向ヒ敵續カハ横矢ニ打ヘシト下知セラル云云

勢陽五鈴遺響安濃郡巻之四終

紙数六拾参枚

63

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan